



写真-1 磯笛公園から洲崎灯台を望む

実施者

＜教員＞千葉工業大学 先進工学部 生命科学科 五明 美智男

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市 市民生活部 市民課市民協働 G, 教育委員会, 一社) 南房総市観光協会, 大房岬自然の家

【市民団体】南房総市富山地域づくり協議会「ふらっと」

【学校】南房総市立富山小学校 5年生 26人, 5年生担任および関係教諭
南房総市立白浜小学校 5年生 17人, 5年生担任および関係教諭

1. 背景・目的・活動内容

(1) 背景

南房総市の海岸域は、東京湾に面する内房地域、太平洋に面する外房地域の2つの特徴を有し、水産資源および観光客が一年中楽しめる重要な地域観光資源を提供している。しかしながら、変容する社会環境、多様化する社会ニーズ等により、里海資源の利活用においても様々な課題が生じている。本活動は、地域の将来を担う子どもたちの地域学習に資するツールの提供により、里海資源の理解を深めることが重要と考え進めてきたものである。地域で学んだ子どもたちは、中学卒業後、木更津・館山などの高校へ通い、進学、社会人と続く成長の中で、生まれ育った地域の里海と疎遠になる傾向があることに着目し、地域の将来像を考える原体験を提供することをねらいとしている。

3年目となる今年度は、富山小学校での継続に加え、富山小学校での先行実績をふまえた開催希望を受けて、白浜小学校での初年度授業を実施することとなった。

(2) 目的

2020年度に続き、富山小学校の5年生については、箱庭生態系模型づくりとして、里海としての岩井海岸の将来像を具体化するための箱庭づくりを行った。箱庭づくりそのものに加え、小学校での自立的な学習メニューとしての展開を意図した。

初年度となった白浜小学校では、すでに実施してきている大房岬自然の家での宿泊体験、地先海岸でのワカメの育成などのいくつかの活動をひもづけことにより、白浜海岸を考える学習を試行することを目的とした。

(3) 実施期間

富山小学校では2022年6月から12月までの計3回の授業(1回あたり2限)を、白浜小学校では2022年6月から9月までの1回の授業(1回あたり2限)を実施した。なお、後者では、12月21日の授業が学級閉鎖により中止となったため、第2回を本報告後の3月に行う予定である。

(4) 活動内容

富山小学校:

1) 第1回授業 岩井海岸研究紹介と手法、目標の説明

前年同様、自己紹介と研究紹介、標本展示などをとおして岩井海岸の魅力を伝えるとともに、Q & Aの形式で子どもたちの質問に回答した。授業で利用する箱庭生態系模型の手法について過去の作成例などを示しながら説明するとともに、箱庭づくりの目標について共有した。(6月8日)

2) 第2回授業 箱庭模型作成プランの発表と箱庭づくりの説明

各グループの夏休みの調べ学習状況、箱庭プランの発表を行い、教員よりアドバイスと箱庭づくりの説明を行った。(11月15日5・6限)

3) 第3回授業 箱庭模型作品の発表および講評

子どもたちの司会進行のもと、6グループの作品発表を行った(写真-2)。あわせて、各模型内容についての子どもたちの質問ならびに聴講者、見学者からの質問、講評などを行った。後日、発表後の吸引の講評内容もふまえ、2022年度5年生の模型内容を1枚の図に整理し図1にまとめた。(12月22日3・4限)

白浜小学校:

1) 第1回授業 研究紹介、説明と学習状況報告

自己紹介、富山小学校での先行事例を紹介するとともに、白浜地先の海岸の状況、生きものすみか、漂着ごみなどの説明を行った。子どもたちの活動状況として、夏休みに実施した白浜地先の6つの海岸での漂着物採集状況の発表を行った。

2) 第2回授業 (3月17日実施予定)

第1回の授業内容を受けて、その後の進捗状況を発表する予定である。この講義後に、白浜小学校の取り組みの方向性を協議する。

2. 成果と課題

(1) 地域貢献面

富山小学校: 3年目を迎えた富山小学校では、総合学習「ぼく私の考える、これからの岩井海岸～箱庭づくりを通して～」として、計36回の年間予定が担任教諭によって作成された上で実施された。教員の授業回数は、2020年7回、2021年4回に対し、3回(初回・説明、中間・方向性確認、最終・講評)となった。小学校主体の学習メニューとしての計画的な運用が行われ、継続的な実行性が確認されるに至った。



写真-2 富山小学校発表準備状況

写真-3 岩井海岸・富山地域模型(富山小学校所蔵)



昔と今の岩井海岸 岩井海岸の環境 岩井海岸のゴミ

復活! にぎわう岩井海岸 岩井海岸の海浜植物 岩井海岸でとれる魚の変化

写真-4 2023年度の作成箱庭

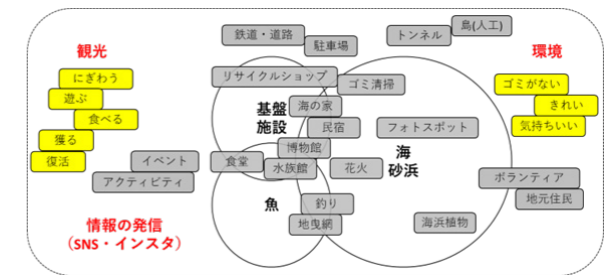


図1 子どもたちのとらえた里海資源と作成した箱庭のコンテンツ・コンセプト

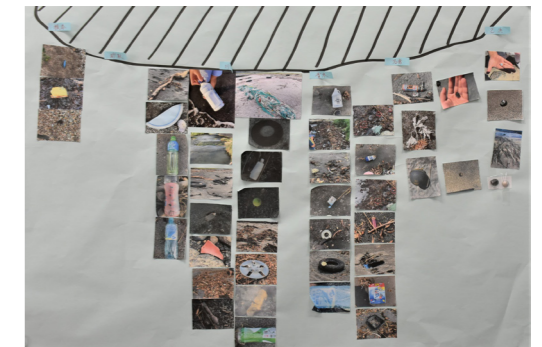


写真-5 白浜小学校漂着物調査データ

域学協働の工夫!

- ★外部専門家の学習へのかかわり(小学校から見た場合は社会人の活用)
- ★地域の学びを通した小学校と家庭、親子の結び付き
- ★地域協議会の情報発信による本事業の保護者・地域への周知
- ★学校の学習メニューとしての自立的な取り組みへの展開
- ★他地域への波及と展開

白浜小学校: 地先海岸での研究実績のある富山小学校と異なり、白浜小学校での実績がなく、白浜海岸の将来像を描かせるための箱庭の方向性を模索することとなった。また、初年度にかかわらず実施回数が確保できなかったこともあり、地域貢献面での成果を記載するには至っていない。

(2) 教育・研究面

富山小学校: 研究面での3年目の成果として、子どもたちの作成した箱庭のコンテンツとその発表内容から、将来像へのメッセージを読み取る試みを行った。大学研究室では、地域資源や課題の発掘手段としてPKJ法(写真を用いたKJ法)を提案、実施してきているが、箱庭に作り込むコンテンツや説明を子どもたちの一人一人の意見としてとらえることにより、小学生対象とした手法としてKJ法

*表彰・マスコミ掲載など

- ・南房総市「広報みなみぼうそう」, No.201, 2022年12月
- ・富山地域づくり協議会ふらっと「ふらっと通信」, No.149・150
- ・富山地域づくり協議会ふらっと「Facebook」<https://www.facebook.com/tomiyamafat/>

としての可発展の可能も示唆された。さらに、こうした読み取りを学生に担当させることにより、教育手段としての有効性も期待される。白浜小学校: 手法の展開以前に、対象とする地域にある程度精通しておく必要があることが確認された。

3. 今後の展開

富山小学校では、5年生の総合学習として定着しつつ、経験を活かした以降の学びも検討されているところである。今年度の実施状況であれば教員の役割は、地域マンパワーでの代替も可能であり、地域完結型・大学教員オブザーバー型として展開する方向性も考えられる。初年度となった白浜小学校では、試行段階として3月の授業をふまえて方向性を再検討する予定である。